

## 会務報告

### 1. 2021年度運営委員会

2021年6月12日10時より第42回日本珪藻学会（オンライン）大会に先立ち、Zoom会議にて行われた。

出席者：会長：出井雅彦，庶務・会計幹事：豊田健介  
 運営委員：齋藤めぐみ，澤井裕紀，鈴木秀和，千葉 崇，豊田健介，伯耆晶子，真山茂樹，渡辺 剛  
 佐藤晋也編集長，辻 彰洋大会会長

### 【報告事項】

#### 1. 会員状況

年	普通会員					名誉会員	団体会員	賛助会員		合計
	一般	学生	奨学	家族	海外			個人	団体	
2019	159	40	3	2	4	2	5	1	1	217
2020	153	33	3	2	4	2	3	1	1	203

庶務幹事より資料に基づき、2020年度末での会員状況が報告された。この中には過去3年間にわたり会費未納者が30名以上含まれている。これらの未納者には、連絡をとり、会費が振り込まれなかった場合は、規程により除籍とするとの報告があった。

#### 2. 編集委員会関係状況

佐藤編集長より、資料に基づき昨年度及び今年度のこれまでの編集状況の報告と、本日の編集委員会での議論について報告がなされた。編集委員会では、若手研究者支援として、超過ページ代の支援（学会が負担）について、合意したとの報告があった。

#### 3. 会計状況

会計幹事より、資料に基づき2020年度の会計状況の説明があり、会計監査の柳沢幸夫氏と小林 敦氏の監査を受けたことが報告された。

### 令和2年度決算（2020年1月1日～2020年12月31日）

収入		支出	
前年度繰越金	5,784,550	Diatom 35巻 印刷費	530,002
会費	558,000	Diatom 35巻 発送費	28,766
会誌売上金	10,000	庶務雑費	34,025
受取利息	62	大会開催助成金	50,000
		日本分類学連合分担金	10,000
		インターネット維持費	13,424
		論文査読謝礼金	30,000
		次年度繰越金	5,656,395
	6,352,612		6,352,612

4. 大会・研究集会のオンラインによる遠隔開催の検討  
 現時点では、今年度の研究集会、来年度の大会の開催地や日程については、全く未定。特に、秋の研

究集会について、今年もオンラインの可能性が高い。来年の大会は、出来るだけ通常の集会開催にしたいが、コロナの感染状況により不透明である。いずれにせよ、発表の機会は確保したい。

#### 5. 日本分類学会連合参加報告

令和3年1月9日（土）10:00～12:00（オンライン会議）

加盟25団体の代表者が出席。配付資料をもとに、2020年度の活動報告が報告された。その後、2020年度の決算、2021年度の事業計画、2021年度予算、その他について審議した。その他審議事項として、気象庁は令和3年1月より「生物季節観測」を（23種目24現象から6種目9現象に）変更することを発表した。これに対して、見直しを求める要望書を提出することにした。

#### 6. 日本珪藻学会学会賞

規程に従い、一次投票により3編の候補論文を決定し、候補論文の中から一つを選ぶ二次投票を行い、過半数の得票があった、Diatom 36巻に掲載された、齋藤めぐみ・柳沢幸夫氏の「富山県八尾地域の中部中新統音川層中の火山灰層からの非海生 *Actinocyclus* 属の産出報告」に決定した。

#### 7. その他

### 【審議事項】

#### 1. 令和2年度決算

報告事項にあった会計報告について審議し、適正と認められた。

#### 2. 令和3年度予算

会計幹事より、資料に基づき本年度の予算について説明があり、了承された。

### 令和2年度決算（2020年1月1日～2020年12月31日）

収入		支出	
前年度繰越金	5,656,395	Diatom 36巻 印刷費	554,972
会費	916,000	Diatom 36巻 発送費	50,000
会誌売上金	10,000	庶務雑費	50,000
		大会開催助成金	100,000
		日本分類学連合分担金	10,000
		インターネット維持費	13,424
		J-STAGE 維持費	50,000
		論文査読謝礼金	60,000
		次年度繰越金	5,693,999
	6,582,395		6,582,395

#### 3. 日本珪藻学会学会賞

##### 1) 令和3年度日本珪藻学会 論文賞

投票の結果に従い、齋藤めぐみ・柳沢幸夫氏の「富山県八尾地域の中部中新統音川層中の火山灰層からの非海生 *Actinocyclus* 属の産出報告」に決定した。

##### 2) 令和3年度日本珪藻学会 功労賞

Diatom 25 巻～30 巻まで、6 年間、編集委員長として、計 7 冊の編集に携わり、本学会に大きな功績を残したことにより、大塚泰介（琵琶湖博物館）に功労賞送ることが決定された。

### 3) 論文賞及び最優秀発表賞の副賞について

会長より、両賞には、副賞として希望の学会誌 3 冊を贈ることになっているが、学会として雑誌のバックナンバーの保存を 10 冊とすることになったため、希望のバックナンバーを贈ることが出来なくなる。そこで別の副賞を考える必要があるとの提案があった。この件については、今後持ち回り運営委員会で検討することになった。

### 4) 超過ページ代の若手支援策について

編集委員長から、委員会の中で若手支援として、超過ページ代の一部または全部を学会が負担することについて検討し、了承した。しかし、条件等については、今後編集委員会で検討し、運営委員会に諮り、その後 HP で周知することになった。

### 5) その他

運営委員より、学会論文賞、最優秀発表賞、功労賞については、HP 上に周知されているが、歴代の受賞論文や受賞者が記載されていないので、載せた方が良いのではないかと提案があり、対応することにした。

## II. 2021 年度編集委員会

2021 年度日本珪藻学会編集委員会が 6 月 12 日（土）9 時より Zoom によりオンライン開催された。出席者は、出井雅彦（会長）、佐藤晋也（編集委員長）、大塚泰介委員、齋藤めぐみ委員、辻 彰洋委員、納谷友規委員、澤井祐紀委員、渡辺 剛委員であった。

### 【報告事項】

#### 1) Diatom 第 36 巻（報告）

- ・総ページ数 108 ページ。論文 8 編（原著 4 編）、第 40 回研究集会のプログラムと要旨、会務報告、英文論文の和文摘要。
- ・論文の掲載は基本的に受理順とした。
- ・引き続き印刷は、(株)国際文献印刷社に依頼した。

#### 2) Diatom 掲載論文のウェブ上での公開について（報告）

- ・受理された論文から順に PDF を J-Stage にアップしている。
- ・34 巻（2018 年）掲載の全論文について、2020 年 12 月末日よりフリーアクセスとした。また、即時公開権が購入された論文については、35 巻（2019 年）、36 巻（2020 年）についてもフリーアクセスとしている。

#### 3) 第 37 巻編集状況（報告：2021/5/31 現在）

受理論文：

- ①(研究ノート) 37: 1-7. Hiroyuki TANAKA: *Aulacoseira praegrnulata* var. *praeislandica* (Jousé) Moisseeva of the early Miocene Masaragawa Formation, Sado Island, Niigata, Japan.

②(原著) 37: 8-21. 嶋田侑真, 澤井祐紀, 藤野滋弘, 中島 礼, 松本 弾 & 岡田里奈: 珪藻化石群集から明らかになった高知県土佐清水市の大岐低地における古環境変動と津波堆積物。

受付、審査中：3 件

#### 4) 編集委員会体制（令和 2 年、令和 3 年）

編集委員長：佐藤晋也（福井県立大学）

編集委員：大塚泰介（滋賀県立琵琶湖博物館）、齋藤めぐみ（国立科学博物館）、澤井祐紀（産業総合研究所）、辻 彰洋（国立科学博物館）、納谷友規（産業総合研究所）、渡辺 剛（東北区水産研究所）

### 【審議事項】

1) 超過ページ代金の見直しと、超過ページ代支援制度  
若手の投稿を促すため、超過ページ代を支援する制度の設立についての提案があり、審議の結果承認された。

#### 2) J-STAGE Data への参加

J-STAGE と連携するデータリポジトリ「J-STAGE Data」の利用について審議され、オープンサイエンスの潮流に合致すること、論文のサプリメントデータを（ほぼ）容量制限無しで保存できることなど、本学会へのメリットが多いことから、承認された。

## III. 2021 年度総会

2021 年度日本珪藻学会総会が、第 42 回大会（オンライン）中に、大会実行委員長の辻 彰洋氏を議長として開催された。

### 【報告事項】

#### 1) 会員状況

豊田健介幹事より以下のような会員状況が報告された。普通会員 178 名（一般会員 138 名、学生会員 31 名、奨学会員 3 名、家族会員 2 名、海外会員 4 名）、名誉会員 2 名、団体会員 3 名、賛助会員 2 名（個人 1 名、団体 1 名）、合計 185 名（2020 年 12 月末日現在）。

#### 2) 編集委員会関係状況

編集委員長より Diatom 36 巻が発行されたこと、掲載論文の J-Stage への公開されていること、Diatom 37 巻の編集状況について報告された。

#### 3) 会計状況

2020 年度の決算が報告された。会計監査の柳沢幸夫氏から当該決算が適正であることが報告された。

#### 4) 今年度の研究集会および次年度大会について

今年度秋の第 41 回研究集会は、検討中であり、次年度の 43 回大会については未定であるとの報告があった。

#### 5) 日本分類学会連合総会参加報告

2021 年 1 月 9 日（土）に国立科学博物館上野本館 2 階講堂で開かれた日本分類学会連合の年次総会に出井が出席した。加盟 25 団体の代表者が出席。配

付資料をもとに、2020年度の活動報告、2020年度の決算、2021年度の事業計画、2021年度予算、その他について審議された。その他審議事項として、気象庁は令和3年1月より「生物季節観測」を(23種目24現象から6種目9現象に)変更することを発表した。これに対して、見直しを求める要望書を提出することにした。

#### 6) 日本珪藻学会学会賞の発表

①令和3年度日本珪藻学会論文賞は、35巻(2019)と36巻(2020)に掲載された論文を対象に、一次選考を経てノミネートされた3編を対象に二次選考を行った。その結果、Diatom 36巻に掲載された、齋藤めぐみ・柳沢幸夫氏の「富山県八尾地域の中部中新統音川層中の火山灰層からの非海生 *Actinocyclus* 属の産出報告」が今年度の論文賞に選出された。

②日本珪藻学会第42回大会最優秀発表賞：大会終了時に発表し、賞状を贈る。

③令和3年度日本珪藻学会 功労賞

Diatom 25巻～30巻まで、6年間、編集委員長として、計7冊の編集に携わり、本学会に大きな功績を残したことにより、大塚泰介(琵琶湖博物館)に功労賞を贈ることが運営委員会で提案された。

#### 7) その他

### 【審議事項】

#### 1) 2020年度決算

会計監査を受けた以下の決算が承認された。

収入		支出	
前年度繰越金	5,806,438	Diatom 34巻 印刷費*	481,312
会費	630,000	Diatom 34巻 発送費*	23,566
会誌売上金	10,000	庶務雑費	28,901
受取利息	65	大会開催助成金	100,000
		日本分類学連合分担金	10,000
		インターネット維持費	8,174
		日本珪藻学会 論文賞 副賞	10,000
		次年度繰越金	5,784,550
	6,446,503		6,446,503

#### 2) 2021年度予算

以下の予算案が提案され、予算が承認された。

収入		支出	
前年度繰越金	5,784,550	Diatom 35巻 印刷費	530,002
会費	832,000	Diatom 35巻 発送費	28,766
会誌売上金	10,000	庶務雑費	50,000
		大会開催助成金	50,000
		日本分類学連合分担金	10,000
		インターネット維持費	13,000
		日本珪藻学会 論文賞 副賞	10,000
		論文査読謝礼	60,000
		次年度繰越金	5,694,735
	6,626,550		6,626,550

#### 3) その他

①今年秋の第41回研究集会及び来年度の第43回大会について

いずれも現時点では、開催場所、日時については未定である。

②令和3年度日本珪藻学会功労賞について

大塚泰介(琵琶湖博物館)に功労賞を贈ることが提案され、承認された。

③大会最優秀発表賞・学会論文賞の副賞について

会長より、両賞には、副賞として希望の学会誌3冊を贈ることになっているが、学会として雑誌のバックナンバーの保存を10冊とすることになったため、希望のバックナンバーを贈ることが出来なくなるので、別の副賞を考える必要があるとの提案があり、この件については、今後持ち回り運営委員会で検討することで承認された。

### IV. 2021年度第1回持ち回り運営委員会

7月28日にメールにて持ち回り運営委員会を開催し、秋の研究集会について審議した。提案は、以下の通りであった。この審議とは別件で、大会時の運営委員会では結論が出ず継続審議となっていた最優秀発表賞と論文賞の副賞(バックナンバー3冊)は、メールでの意見聴取の結果、廃止することを確認した。替わりの副賞については、継続して検討することになった。

### 【審議事項】

以下の3点について審議した。

①今年秋の研究集会は、オンラインで開催する。

②実行委員は、会長に一任(昨年秋のオンライン研究集会、本年春のオンライン大会に関わった経験者を中心にお願いする)。

③実施時期は、11月(遅くとも12月第1週)とする。

審議の結果、委員全員からの賛成を得て、提案通り決定した。

尚、この結果を受け、会長が実行委員として、豊田健介氏、佐藤晋也氏、渡辺剛氏、千葉崇氏、納谷友規氏の5名に依頼した。その後実行委員会での検討の結果、11月27日に研究集会を開催することが決定した。

### V. 2021年度第2回持ち回り運営委員会

予てより編集委員会で検討されていた以下の件について、10月27日にメールにて発議し、持ち回り運営委員会を開催し、審議した。

### 【審議事項】「J-STAGE Dataの利用について」

審議の結果、「まずは今後3年間はお試し期間としてデータリポジトリへの掲載のための費用5万円を学会持ちとして予算計上し、その後はそれまでの実績を考慮して著者の負担ある・なしの方針を決める」ということになった。また、今後3年間、これは2022年度から2024年度とし、来年度から予算を計上し、対応する。

### VI. 日本珪藻学会第42回大会報告

2021年度日本珪藻学会第42回大会(大会会長:出井雅彦)が、2021年6月12日(土)にオンライン会議ツールZoomを使用して開催された。国立科博博物館

での学会の実施は当初、日本珪藻学会第41回大会（筑波）として2020年5月16日～17日に計画していたが、新型コロナウイルスによるパンデミックにより中止となった。そのリベンジとして計画された第42回大会も残念ながらパンデミックの継続により、オンライン開催となった。

オンライン開催にあたり、国立科学博物館の辻および齋藤めぐみにオンライン開催の経験が無かったため、前年の研究集会を経験した豊田健介・佐藤晋也・渡辺剛の3名を実行委員会委員として迎えて開催した。

オンライン開催の特性を活かし、岡山大学 農学部の根本理子助教と会員の東京学芸大学 真山茂樹特命教授による招待講演を企画し、参加しやすくするために参加費を非会員も含め無料とし、会期も通常の2日を短縮し1日とした。

参加者は67名で、正式な記録はとっていないが、非会員も多く参加し、盛況であった。発表・総会・懇親会はすべてZoomによるオンラインで行った。

#### VII. 日本珪藻学会第41回研究集会報告

2021年度日本珪藻学会第41回研究集会（研究集会長：出井雅彦）が、2021年11月27日（土）にオンライン会議ツールZoomを使用して開催された。実行委員は、渡辺剛（水産機構）、納谷友規（産総研）、千葉

崇（酪農大）、豊田健介（日歯大）、佐藤晋也（福井県大）の5名であった。今回の招待講演は「増えたら困る？海の珪藻と珪藻を取り巻く生物との関係」というテーマで企画し、西川哲也上席研究員（兵庫県立農林水産技術総合センター）には「養殖海苔に色落ち被害を引き起こす珪藻～*Eucampia zodiacus*を例に」、片野俊也准教授ら（東京海洋大学・海洋環境科学部門）には「*Cerataulina pelagica*に寄生する原生生物」という演題で講演いただいた。本講演では過剰な珪藻が他の生物に与える影響や、増殖した珪藻が減っていくメカニズムの一端について紹介いただき、活発な議論が行われた。一般講演は15題で39歳以下の若手発表は6題だった。珪藻学会におけるオンライン会議も今回で3回目となり、大きなトラブルも無く、終日スムーズに進行できた。

研究集会の最後に最優秀発表賞として、加藤悠爾さんから（筑波大学・生命環境）による「セルソーターを用いた海底堆積物中に産する珪藻化石のタクサゴとの分離」が選出され、出井会長から表彰が行われた。懇親会はバーチャル空間oVice (<https://ovice.in/ja/>)で行い、対面に近い感覚で開催できたように思う。研究集会には計59名の会員・非会員が参加していただき、盛況のうちに終えることができた。これは関係者によるご尽力、参加者による事前の動作確認やルール遵守といったご協力の賜物であり、実行委員を代表して感謝申し上げる。